

資料1 心理教育プログラム実施に関する質問の回答

① あなたが、生徒に身につけさせたいと考えていることは何ですか。(3つまで)

(ア) 学力	50%
(イ) 体力	9%
(ウ) ルールを守ること	35%
(エ) コミュニケーション能力	37%
(オ) 聞く力	11%
(カ) 思考力・判断力	45%
(キ) 主体性	20%
(ク) 自己管理能力	37%
(ケ) 礼儀作法・マナー	28%
(コ) 感情のコントロール	8%
(サ) その他	1%

② あなたがホームルーム担任をする場合、どのようなホームルーム経営を目指したいですか。具体的に目標がある場合は、その他に記入してください。(3つまで)

(ア) 生徒一人一人が安心できる学級	50%
(イ) 互いを認め合い尊重できる学級	73%
(ウ) 規範意識をもった学級	40%
(エ) 希望進路を実現できる学級	40%
(オ) 様々な問題や課題に積極的に取り組み、解決していこうとする風土のある学級	29%
(カ) 明るく笑顔があふれる学級	30%
(キ) その他	0%

③ 生徒は、高校生活に何を望んでいると思いますか。(3つまで)

(ア) 楽しい学校生活を送る	86%
(イ) 新しい友人をつくる	44%
(ウ) 充実した部活動	22%
(エ) 進路保障	42%
(オ) 学力をつける	17%
(カ) 将来の夢(目標)を見つける	44%
(キ) 資格の取得	4%
(ク) その他	2%

⑧ 教員としてあなたが最も力を入れていることは何ですか。

(ア) 教科指導	42%
(イ) 部活動の指導	3%
(ウ) ホームルーム経営	7%
(エ) 分掌の業務	4%
(オ) 生徒理解	25%
(カ) その他	6%
無回答	6%

※自由記述は除く。

⑨ これまでに心理教育プログラムを実施したことがありますか。

ある	13%
ない	83%
無回答	4%

⑬ 心理教育プログラムを実施することについて、あなたの意識は次の中でどれにあてはまりますか。

(ア) 積極的に取り組みたい	16%
(イ) どちらかという取り組みたい	50%
(ウ) どちらかという抵抗感がある	17%
(エ) 非常に抵抗感がある	1%
無回答	15%

⑮ 心理教育プログラムは必要だと思いますか。また、その理由をお答えください。

はい	60%
いいえ	19%
無回答	19%

⑰ 心理教育プログラムの実施頻度で望ましいと思うものはどれですか。

(ア) 毎日	0%
(イ) 週1回程度	4%
(ウ) 月1回程度	20%
(エ) 学期に1回程度	34%
(オ) 年1回程度	4%
(カ) その他	15%
無回答	21%

⑱ あなたが心理教育プログラムを実施される際、援助として望むことは何ですか。(複数選択可)

(ア) 校内研修	49%
(イ) 外部機関等での研修	27%
(ウ) 書籍類の購入	8%
(エ) 指導案や教員などの提供	45%
(オ) 教育相談担当の教員やスクールカウンセラーにTTで参加してもらう	35%
(カ) その他	9%
無回答	16%

※資料1は、高知県中部地域の総合学科を設置する高等学校3校の全教員135名を対象としたアンケートの結果をまとめたものである。回収率84%、有効回答率100%であった。

資料2 心理教育プログラムに関する用語の認識度調査

以下の言葉についてどの程度知っているか、現在の認識度をご回答ください。

知っている、説明できる度合いを主観的に0～10のスケールに○をつけてご回答ください。

例) かなり知っていて詳しい場合には、満点10の評価点の値の位置にチェックを記入してください。

『自己肯定感』 …… 0 ————— 5 ————— 10

(まったく知らない) 0 (よく知っていて説明できる) 10

『ソーシャルスキル教育』 …… 0 ————— 5 ————— 10

『Q-U』 …… 0 ————— 5 ————— 10

『構成的グループエンカウンター』 …… 0 ————— 5 ————— 10

『心の冒険教育』 …… 0 ————— 5 ————— 10

『ジョハリの窓』 …… 0 ————— 5 ————— 10

『アンガーマネジメント』 …… 0 ————— 5 ————— 10

『ピア・サポート』 …… 0 ————— 5 ————— 10

『アイメッセージ』 …… 0 ————— 5 ————— 10

『リフレーミング』 …… 0 ————— 5 ————— 10

『プロジェクトアドベンチャー』 …… 0 ————— 5 ————— 10

『ストレスマネジメント教育』 …… 0 ————— 5 ————— 10

『すごろくトークング』 …… 0 ————— 5 ————— 10

『アサーション・トレーニング』 …… 0 ————— 5 ————— 10

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

資料3 心理教育プログラムに関する用語の認識度調査の回答

心理教育プログラムに関する用語	0	1～3	4～7	8～10	無回答	平均値
	認識無し	認識度 低	認識度 中	認識度 高		
ソーシャルスキル教育	26%	20%	42%	7%	4%	3.4
Q-U	10%	6%	42%	40%	3%	6.3
構成的グループエンカウンター	33%	19%	32%	12%	4%	3.1
心の冒険教育	46%	21%	19%	9%	4%	2.1
ジョハリの窓	40%	12%	31%	14%	4%	3.1
アンガーマネジメント	42%	17%	32%	5%	4%	2.4
ピア・サポート	27%	18%	42%	10%	4%	3.5
アイメッセージ	29%	15%	30%	22%	4%	4.0
リフレーミング	41%	18%	26%	12%	4%	2.7
プロジェクトアドベンチャー	49%	22%	19%	5%	5%	1.8
ストレスマネジメント教育	45%	19%	28%	3%	4%	2.0
すごろくトークング	45%	11%	28%	12%	4%	2.7
アサーション・トレーニング	50%	12%	22%	12%	4%	2.5

※資料3は資料1と同様に、アンケートを実施した3校の回答をまとめたものである。

資料4 「リフレーミング」学習指導案

「リフレーミング」学習指導案

1. テーマ

「みんなでリフレーミング～短所はすべて長所になる～」

2. ねらい

日頃、短所だと感じている自分の性格が、実は見方を変えれば長所ともいえること（リフレーミング）を知る。自己開示したうえで、クラスメイトから自分へプラスのフィードバックをしてもらうことは、自分の長所・短所を見つめ直すよいきっかけとなるだろう。自己理解・他者理解を深めることで、よりよい人間関係づくりを目指す態度を育てるとともに、志望理由書や履歴書などの作成のための準備とする。

3. 準備物

- ①ワークシート…各自1枚 ②リフレーミング辞書（プリント）…ペアに1枚
- ③自己紹介シート…各自1枚 ④「活動のふりかえり」シート…各自1枚

4. 授業実施日時・場所・授業者

平成28年10月4日（火）5限・各ホーム教室・各ホーム担任

5. 展開

	○生徒の学習内容	形態	●指示・説明	□留意点
インストラクション (10分)	○今日のテーマと「リフレーミング」について理解する。 ○自己紹介シートを記入しグループで自己紹介する。	一斉 グループ	●本時のねらいと「リフレーミング」について説明する。 ●グループに分かれ、机の移動。 <u>自己紹介シート配布</u> ●自己紹介シートの説明	□短所を語ることに抵抗のある生徒へ配慮する。 □からかみやふざけは絶対にしないことを約束する。 □話の聴き方
エクササイズ (35分)	○ワークシートに自分が短所だと思っているところを書き出す。 ○相手ペアが書いた短所をリフレーミングする。 ○グループでリフレーミングした結果を発表する。	個人 ペア グループ	<u>ワークシート配布</u> ●ワークシート記入の説明 ●机間指導 ●ワークシートを交換させ、ペアでリフレーミングをする。 <u>リフレーミング辞書配布</u> ●机間指導 ●ワークシートの順に読んで発表させる。	□リフレーミング辞書を配布するタイミングに留意する。 □リフレーミングが難しい言葉にはヒントを与えたり、他の生徒に意見を求めるよう促したりする。
シェアリング (5分)	○ワークシートに今日の感想を書く。 ○グループで感想を出し合う。	個人 グループ	●本時のねらいを確認する。 ●次回、志望理由書を作成することを予告しておく。	□時間があれば、全体でシェアリングしてもよい。

資料6 「ひらめき教室」学習指導案

「ひらめき教室」学習指導案

1. テーマ

「ひらめき教室」

2. ねらい

あきらめずに考え続けることよさやひらめくことの気持ちよさを体験すると同時に、仲間と協力することで問題解決につながることに気づく。問題の解決に主体的、協同的に取り組む態度を育てる。

3. 準備物

- ①教員用名札 ②問題用紙 ③解答用紙 ④「活動のふりかえり」シート

4. 授業実施日時・場所

平成 28 年 11 月 15 日 (火) 6 限・体育館

5. 展開

	生徒	教員
14:30	<p>グループごとで集合。 今日の内容について理解する。 グループごとでそれぞれじゃんけんし、各自の番号を決める。 ①②⇒問題を探しに行く。 ③④⇒ヒミツノアイコトバを言いに行く。 ⑤⑥⇒場所の確保</p>	<p>出欠確認。 今日の内容について説明する。(授業者) ※スクリーン・プロジェクター使用。 グループごとでじゃんけんさせ、役割分担する。 (授業者)</p> 
14:40	<p>①②の生徒は問題を探しに行く。 「2年〇ホームの〇〇です。△△先生、問題をもっていますか？」と先生に声をかける。 声をかけた先生が問題を持っていればもらえるので、グループに持ち帰る。 すべての問題がそろそろまで探す。</p> <p>③～⑥の生徒は、①②の生徒が持ち帰った問題を考える。①②の生徒にはどの問題がそろっていないかなど、手助けをする。 全部探し終わったら全員で問題を解く。</p> <p>ヒミツノアイコトバがわかったら、③④の生徒が最終問題系の教員のところへ言いに行く。正解の場合、最終問題をもらう。</p> <p>最終問題の答えがわかったら、全員でひらめきさんのところへ行って答えを言う。 正解したらそれぞれの場所へ戻る。</p>	<p>教員全員が、各自の名前が書かれた問題入りのファイルを持って体育館内に散らばって待機。 生徒が「2年〇ホームの〇〇です。△△先生、問題をもっていますか？」と声をかけてくる。問題を持っている人は渡す。持っていない人は次へ行くよう促す。</p> <p>ヒントは絶対に与えない!</p> <p>最終問題系の教員は、正解ならば最終問題を渡す。 ※時間がかかりすぎる時には、全部解けていなくてもよいということを生徒に伝えます。</p> <p>ひらめきさんは解答の確認をする。</p>
15:00	<p>振り返りシートを記入する。</p>	<p>振り返りシートを記入させる。(授業者) 全体でシェアリング。(授業者) ※解答用紙、問題は回収します。</p>